

平成30年度 佐賀県農業大学校 評価表

教育目標	0 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成 0 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成	○達成度 A:十分達成できている (100%以上) B:概ね達成できている (100%未満～80以上) C:やや不十分である (80%未満～60%以上) D:不十分である (60%未満)
重点目標	1. できるだけ多くの優秀な入学者の確保 2. 高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上 3. 全ての学生の進路決定 4. 社会人からの就農者の確保 5. 農業者研修の充実	

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 できるだけ多くの優秀な入学者の確保	受験者数	受験者50名以上	○農大の情報の提供 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ホームページの更新(各専攻毎に月1回以上更新) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 講義・実習等の写真撮影 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 校内でホームページ操作研修会の開催				
			○各機関・団体への周知 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙に学生募集の掲載依頼 <input checked="" type="checkbox"/> 県広報紙への掲載 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付 <input checked="" type="checkbox"/> 農大の募集説明会の開催(10校以上) ・高校への進路ガイダンスへの参加 ・地区別懇談会や同窓会組織を活用した学生募集推進				
			○農業系高校等との連携強化 <input checked="" type="checkbox"/> 農業系高校連絡会議の開催(校長、農場長会) ・農業系高校への出前授業への積極的参加(10回以上) ・高校生の農大施設訪問・受け入れ ・未来さが農業塾生徒の農大訪問等の積極的情報提供				
	○農業系高校等との連携強化 <input checked="" type="checkbox"/> 農業系高校連絡会議の開催 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会の開催 <input checked="" type="checkbox"/> オープンキャンパスの開催(6月、7月8月) ・オープンキャンパス時に在校生との交流会 オープンキャンパス ○農大の情報の提供						
	オープンキャンパスの参加数	オープンキャンパス参加者40名以上	○各機関・団体への周知 <input checked="" type="checkbox"/> 全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙にオープンキャンパスの掲載依頼 <input checked="" type="checkbox"/> 県広報紙への掲載、ラジオ、テレビ広報媒体を活用したPR ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付				

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上	高い技術力や経営力の習得	【農産・露地野菜】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫までの栽培管理技術の習得 到達した学生の割合 80%以上 ※	・栽培圃場における日頃からの観察の実施と栽培管理日誌の記帳 ・学生による栽培暦の作成 ・農業試験研究センターの関連研究担当における現場実習 ・農業試験研究センターとの連携によるプロジェクト課題の実施(2課題) ・専門的知識に関する勉強会の実施 2回 ・新規品目や品種の導入及び試作(2品目)				
		○農業機械の基本操作と維持管理方法の習得 ・一連の作業が機械で出来る到達した学生の割合 80%以上※ ・主要な農業機械の作業点検等ができる 到達した学生の割合 100% ※	・実習時間内における農業機械の操作実習年間10時間以上 ・トラクターやコンバイン等、主要な農業機械の作業点検・操作方法の実習				
		○経営管理能力の向上 ・水稲を中心とした栽培技術及び経営評価の実施 経営評価方法の習得到達した学生の割合 100% ※ ・タマネギを中心とした経営評価の実施 経営評価方法の習得到達した学生の割合 100% ※	□プロジェクト課題における水稲の省力・低コスト栽培技術、及び環境保全型農業について、経営分析と販売戦略(直売の活用)の検討 ・30年産タマネギの経営分析及び29年産との比較検討				

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上	・高い技術力や経営力の習得	【施設野菜】 ○栽培管理技術の習得 ・環境制御技術の習得 得できる学生の育成 80%以上 ※	・観察に基づいた管理の意識づけ ・作業日誌の記帳確認 ・IoT機器を活用した環境管理 ・環境測定機器の取り扱い方法及び活用方法研修会 ・ハウス内環境と植物生理の関連指導 ・天気予報を活用した環境設定の指導 ・環境制御ハウスへの導入品目の拡大				
		○経営能力の向上 ・担当する品目の収量及び所得の把握ができる 到達した学生の割合 80%以上 ※ ・農業簿記による経営管理手法の習得	・日常の収支記帳確認 ・指導機関(農技防、農試)からの指導助言 ・ゼミ開催によるインターネット、統計資料等の利活用(10回以上) ・卒論設計検討会1回、中間検討会(1回) ・農業簿記の理解を深めるためのゼミ・研修会(6回以上) ・農業簿記検定の過去問の活用				
	・高い技術力や経営力の習得	【花き複合】 ○花き栽培に関する基礎知識の習得 ・主要花きの育苗から収穫までの一連の栽培技術の基礎的知識を習得 到達した学生の割合 80%以上 ※	・作業及び栽培技術の日誌への記帳確認 ・主要栽培品目の、播種、育苗から栽培、収穫まで一連の生育、作業の指導 ・季節ごとのハウス管理の指導 ・現地課題解決に取り組むため農業技術防除センターや農業試験研究センターからの支援				
		○花き栽培に関する栽培技術の習得 □農薬・液肥散布用機械の操作の習得到達した学生の割合 80%以上 ※ ・作物及び生育ステージに応じた栽培技術を習得した学生の割合 80%以上 ※	・定期防除散布での機械操作習得のための研修及び散布農薬の選定等の指導(週1回) ・品目ごとの栽培を行うため基礎的技術(作付け準備、管理、収穫)の指導 ・収穫後の花きの鮮度保持技術、フラワーアレンジメントなど加工等による流通、消費動向把握の指導				

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上	高い技術力や経営力の習得	【果樹複合】 ○主要常緑・落葉果樹の生理生態の習得到達した学生の割合 80%以上 ※	・専門誌および栽培管理雑誌による学習の強化(月2回以上) ・栽培管理記録簿を作成し特記事項を整理・記録(月2回以上) ・品目毎に質疑を実施し習熟度を確認(月1回以上) ・経営会議および実習終了後に気づきおよび感想を整理・確認				
		○果樹の高品質・安定生産技術の習得到達した学生の割合 80%以上 ※	・1年生時から進路に合わせた担当品目を設定 ・生育調査、果実分析、土壌診断等の実施 □担当品目は生産から販売までの一貫体制を指導 □品目改善点の整理・検討 ・果樹試験場で高度な実習の実施				
		○経営能力の向上・果樹経営特性の理解到達した学生の割合 80%以上 ※	・労働時間、使用資材、収量、販売金額等についての記帳 ・記帳内容について統計資料等と比較し問題点の整理 ・経営改善点の整理・検討				
		【畜産】 ○家畜の性周期、発情兆候、繁殖生理の学習と繁殖技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※	・発情観察やホルモン処理による人工授精の実施 ・繁殖牛、繁殖豚の発情観察記録表の作成 ・超音波診断装置を用いた子宮の状態の観察 □家畜人工授精講習会の受講 ・妊娠期間の調査 ・畜産試験場での実習実施(2年生30日、1年生20日)				
		○家畜栄養の学習と飼料給与技術の習得到達した学生の割合 80%以上 ※	□飼料給与基本プログラムに基づいた飼料給与の実践 □発育状況把握のための体測実施 毎月 ・発育状況確認のための子牛セリへの参加 ・畜産試験場での実習実施(2年生30日、1年生20日)				
		○家畜ふん尿処理技術の学習と堆肥化技術及び関連作業機械操作の習得到達した学生の割合 80%以上 ※	□堆肥舎での堆肥化処理と圃場還元の実践 □ローダーやマニアスプレッタ等の作業機械を用いた作業実習の実施 □堆肥化に伴う堆肥の温度変化観察の実施 ・畜産試験場での実習実施(2年生30日、1年生20日)				
		○飼料作物栽培の学習と飼料生産技術及び関連機械操作技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※	・夏作、冬作の飼料作物栽培実践 ・耕起、施肥、播種、収穫、調整に関する作業実習の実施 ・飼料作物生育状況の観察の実施 ・畜産試験場での実習実施(2年生30日、1年生20日)				

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2	高い技術力や経営力の習得	【農産加工】 ○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得 ・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※	○穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術習得 ○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得 (1年生) ・食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習 (2年生) ・農産物の食品加工技術及び商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等の演習				
		○学生発案によるオリジナル商品化 1商品以上	・農産加工研究会による試作研究への指導 ・学生の提案を基に、農大産の農作物を利用した商品設計				
	資格等の取得向上	○カリキュラムの中で必要な資格の合格率100% ※大型特殊免許、けん引免許、家畜人工授精師等 ○選択性の資格の合格率 50%以上 ※農業技術検定、危険物取扱者、家畜商、ボイラー、フォークリフト等	○研修の充実 ・必須の免許・資格の必要な者に対し適宜補講を行うなどして免許取得のレベル向上の指導 ・大型トラクター ・けん引 ・家畜人工授精士 ・資格や免許に対応した特別講義の開催 □テストの実施及び解説 □過去問題を活用した指導 ・農業技術検定2級、3級 ・危険物取扱者 ・毒劇物取扱者 ・フォークリフト ・小型車両系建設機械 ・玉掛け ・小型移動式クレーン ・ボイラー ・フラワー装飾2級 ・狩猟免許				
3	全ての学生の進路決定	<input checked="" type="checkbox"/> 進路決定率100%	○進路指導の強化 ・進路指導を行う専任職員の配置 ・ジョブカフェ佐賀と連携した進路指導の強化 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 農業次世代人材投資事業(準備型)の活用 <input type="checkbox"/> 先進農家(農業法人を含む)への視察研修の実施(3回) <input type="checkbox"/> 若手農業者との意見交換会の開催(2回) <input type="checkbox"/> 農業大学校での農業法人、企業等の会社説明会の実施 <input type="checkbox"/> ローワークとの連携 <input type="checkbox"/> 求人情報の提供 随時 <input checked="" type="checkbox"/> インターンシップの積極的推進 ・1年生からの進路指導の強化				

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 社会人からの就農者の確保	受講者の満足度	社会人のための就農講座受講者の満足度 満足:80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズの把握 ・就農に必要な技術・知識習得のための研修内容の企画(講義聴講やほ場実習、集合研修、先進農家研修) ・受講者の就農に向けたアドバイスの実施 ・普及センターなどの地域の関係機関との連携 				
5 農業者研修の充実	大型特殊(農耕車)、農耕用けん引の免許取得	<ul style="list-style-type: none"> ・受講定員枠の充足率 100% ・免許合格率 大型特殊(農耕車): 98%以上 けん引(農耕用): 95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講待機の状態に併せた研修回数の設定 ・市町との受講待機者情報の共有 ・研修の受講辞退者にも対応した受講者の調整 ・操作技術(特に、けん引)の指導方法の工夫(動画や模型の活用) ・補習や個々の受講者に合った指導 				
	(佐賀農業経営者スキルアップ研修)	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者数(定員の確保) 4コース 40名 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業士、青年農業士、農業青年クラブ員、昨年度の受講者、市町、JA青年部等への周知徹底 ・普及センター等でのプロモーションビデオの活用 ・募集開始時期の前進化(夏季開催) ・新聞、HP等を活用した情報提供 				
	受講者数	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションの実施 ・アンケート調査を毎回実施し受講者の理解度を把握 ・アンケート調査結果をもとに研修内容を調整 ・運営委託業者と研修内容等の調整 				

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
5 農業者研修の充実	(農産加工支援研修) 受講者数	・受講者数の確保 2講座 15名	○普及センター、農政企画課、6次産業化サポートセンター等と連携した募集				
		(基礎研修) ・基礎的知識・技術の習得 概ね理解した受講生の割合80%以上	・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施(基礎)				
		(応用研修) ・商品につながる農産加工品の開発能力の向上 受講者1人(組織) 1品目以上	・商品づくりと試作研究への指導 ・新商品開発能力を高める試作研究への指導				
5 農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 80%以上	・研修に対する満足度 80%以上	・農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の実施 ・参加後の意向調査等の実施				
		・研修に対する満足度 やや満足以上の割合 80%以上	・青年農業士を対象とした各種研修の開催 ・研修後にアンケート等の実施 ・研修後、参加者による意見交換会の実施				
		・研修に対する満足度 やや満足以上の割合 80%以上	・農業士を対象とした各種会議・研修会の開催 ・研修後にアンケート等の実施 ・研修後、参加者による意見交換会の実施				

※到達した学生の割合とは、農業実習の評価基準における技術評点80～62点(100点満点で)以上の割合を80%以上とする